

石炭採掘地選給買契約説明書

石炭採掘地選給買契約説明書
21
5
25

共同石炭
L
8

共同石炭採掘株式會社

目 次 編 集 所

共同石炭採掘株式會社



石炭採掘進捗調査説明書

一 位置及區域

静岡県採掘進捗調査第一號

日鐵採炭株式會社二瀬採炭所 稻葉礦

別紙添付圖々示ノ區域

二 發生ノ動機

共同石炭採掘株式會社ハ國石、海陸炭ヲ採掘賣買會社ニシテ本突

約ニヨリ該區域内ノ有價炭ヲ日本製鐵ヘ納炭シ國石、海陸炭ハ共同

石炭ノ取得スルノ條件ニ因リ本調査ヲ契約々シモノニシテ是レガ

動機ナリ

茲現在區ノ経路及解決困難ナル地田

別紙添付圖々示ノ區域内竹藪八尺、海草八尺炭層ヲ採掘中ニシテ

Copyright © 1911 by Tokai Carbon Co., Ltd.

昭和十一年五月廿七日

。諸君、現起敷敷ノ決定ニ關シテハ、適宜双方會談ノ上決定セム
カノ由難ナル事由ナシ

四野采ノ見込シ

皆東ニ於テハ和船機カ設備ナシタル場合ニハ、現件ノ前其便的區域以
外ノ地區ノ復興準備ヲ交渉ノ決定ナリ

瓦敷敷訂算

別表ノ通り第一四ニ協定瓦敷ヲ決定セムニ區域ノ擴大ニ依リ

第二四ノ協定瓦敷ヲ算出セムノナリ

六尺瓦ノ計量並ニ方法

現在竹藪八尺(才組)幅、海軍八尺幅ノ二幅口ニヨリ發行中ナリ

七會社間ノ契約書文ハ案アレバ發行ノ事

別紙添付ノ通り

右ノ通り現在起ノ状況ヲ契約書、瓦敷敷、圖面相添へ及御報告候也

昭和十一年五月廿七日

福岡縣高橋郡油壺町大字才田

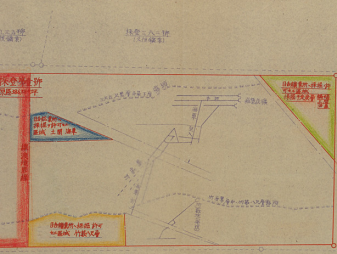
兵衛石炭礦業株式會社日吉礦山所

副筆代筆人 宇佐見 敬一

九州地方回工局

飯塚出張所 御中

昭和十一年五月廿七日



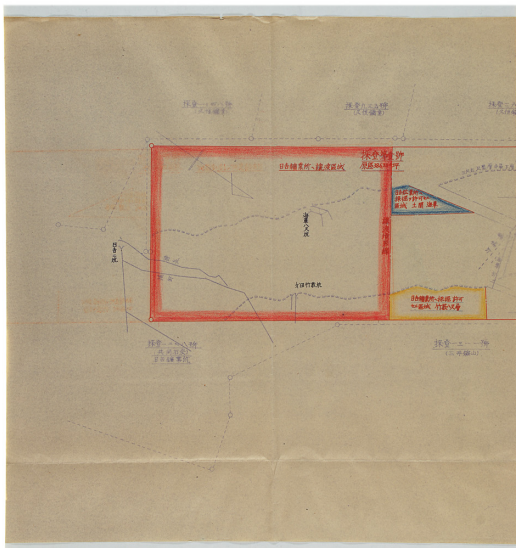
柏果及種鑄三開在圖

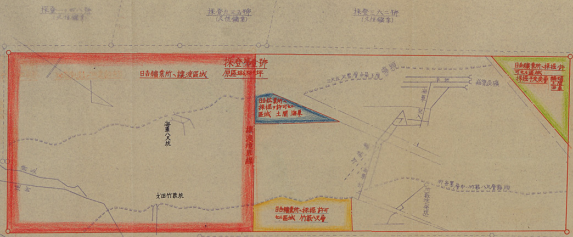
繪尺六十令上

抹堂一三一號
(二作鐵山)

- 規例
- 竹叢八尺 樹高五尺 樹三丈 編籬五尺
 - 上開八尺 樹高八尺 樹五丈 樹三丈 樹五丈
 - 竹 叢八尺 樹高五尺 樹三丈 樹五丈
 - 上開八尺 樹高八尺 樹五丈 樹三丈 樹五丈
 - 樹高五尺 樹三丈 樹五丈 樹八尺 樹五丈 樹三丈 樹五丈







- 凡例
- 日南橋東門、鐘樓區域
 - 日南橋西門、鐘樓區域
 - 日南橋南門、鐘樓區域
 - 日南橋北門、鐘樓區域
 - 日南橋東門、鐘樓區域
 - 日南橋西門、鐘樓區域
 - 日南橋南門、鐘樓區域
 - 日南橋北門、鐘樓區域

日南橋東門、鐘樓區域

日南橋西門、鐘樓區域

日南橋南門、鐘樓區域

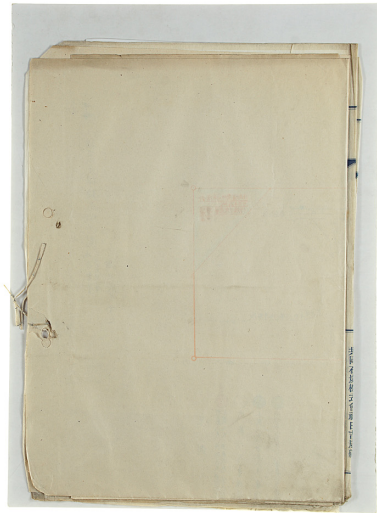
日南橋北門、鐘樓區域

日南橋東門、鐘樓區域

日南橋西門、鐘樓區域

日南橋南門、鐘樓區域

日南橋北門、鐘樓區域



上海圖書館藏書



協定数量

第一回 一一〇〇〇 昭和十年七月ヨリ向フ五ヶ年

第二回 四〇〇〇〇 昭和十五年七月ヨリ向フ十ヶ年

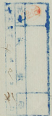
計 五十五萬一千九百四十七 十ヶ年後三年ノ内

計 五十五萬一千九百四十七 (金納数量)

其外二三ヶ年後五八六七斤先ノ事

昭和十年七月ヨリ向フ五ヶ年
昭和十五年七月ヨリ向フ十ヶ年
計 五十五萬一千九百四十七 (金納数量)
其外二三ヶ年後五八六七斤先ノ事

石川式合資会社日吉炭坑
昭和十年七月ヨリ向フ五ヶ年
昭和十五年七月ヨリ向フ十ヶ年
計 五十五萬一千九百四十七 (金納数量)
其外二三ヶ年後五八六七斤先ノ事



石川式合資会社日吉炭坑
昭和十年七月ヨリ向フ五ヶ年
昭和十五年七月ヨリ向フ十ヶ年
計 五十五萬一千九百四十七 (金納数量)
其外二三ヶ年後五八六七斤先ノ事



十一	Y	1907	928182818	2500	10000	10000
十二	Y	1907	928182818	2500	10000	10000
十三	Y	1907	928182818	2500	10000	10000
十四	Y	1907	928182818	2500	10000	10000
十五	Y	1907	928182818	2500	10000	10000
十六	Y	1907	928182818	2500	10000	10000
十七	Y	1907	928182818	2500	10000	10000
十八	Y	1907	928182818	2500	10000	10000
十九	Y	1907	928182818	2500	10000	10000
二十	Y	1907	928182818	2500	10000	10000



現在日終積累金當り

日付ノ益部出来ト夕日終額由トクテ積累

原簿	買入金當温當り	日終積	金積定額	年間日付利益	計
原料	22,30-1,07=21,23 (運賃) 買分寄	22,30	97	2万圓	10400圓
日付粉炭	18,30-1,07=17,23 (運賃) 買分寄	19,20	1,97	2万圓	30400圓
日終積累	22,30-1,07=21,23 (運賃) 買分寄	17,20	4,03	2万圓	80000圓
原料	18,30-1,07=17,23 (運賃) 買分寄	14,80	2,48	2万圓	48000圓
日終積累	18,30-1,07=17,23 (運賃) 買分寄	14,80	2,48	2万圓	128200圓
摘要	益部日付ノ出来トクテ 日終積由トクテ	日終積利 58500圓	合計 188500圓	日付ノ利トクテ	



本 社 東京市中央区本町一丁目一丁目
 支 店 大阪市東区東本町一丁目一丁目
 支 店 神戸市中央区東川崎町一丁目一丁目
 支 店 名古屋市東区東本町一丁目一丁目
 支 店 京都市東区東本町一丁目一丁目
 支 店 大阪市東区東本町一丁目一丁目
 支 店 福岡市東区東本町一丁目一丁目
 支 店 仙台市東区東本町一丁目一丁目
 支 店 札幌市東区東本町一丁目一丁目





中華民國二十九年七月五日 財政部頒布之「國庫券發行辦法」

券別	發行日期	發行地點	發行總額	發行單位	發行金額	發行地點
國庫券	1940年1月1日	南京	100,000,000元	財政部	100,000,000元	南京
國庫券	1940年1月1日	南京	100,000,000元	財政部	100,000,000元	南京
國庫券	1940年1月1日	南京	100,000,000元	財政部	100,000,000元	南京
國庫券	1940年1月1日	南京	100,000,000元	財政部	100,000,000元	南京
國庫券	1940年1月1日	南京	100,000,000元	財政部	100,000,000元	南京
國庫券	1940年1月1日	南京	100,000,000元	財政部	100,000,000元	南京
國庫券	1940年1月1日	南京	100,000,000元	財政部	100,000,000元	南京
國庫券	1940年1月1日	南京	100,000,000元	財政部	100,000,000元	南京
國庫券	1940年1月1日	南京	100,000,000元	財政部	100,000,000元	南京
國庫券	1940年1月1日	南京	100,000,000元	財政部	100,000,000元	南京

中華民國二十九年七月五日 財政部頒布之「國庫券發行辦法」

財政部 財政部



日銀銀行
 支店
 300
 300
 300

控

昭和二十年四月十七日

若松市本町二丁目二〇六番地

共同石炭銀業株式会社

社長 入交太蔵

日銀銀業株式会社

二國銀業所長佐藤松之丞 殿

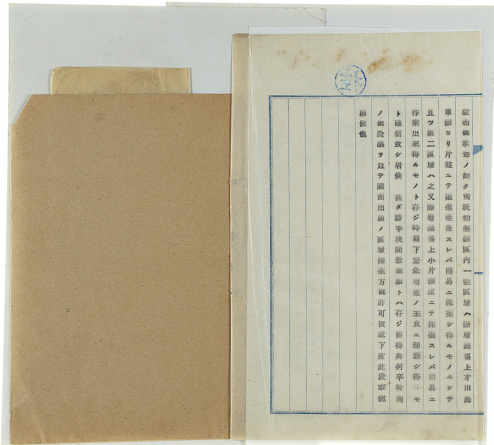
謹啓 時局下急々銀業界之不安定貨換

際著弊計備面計被済ノ下ニ増産報面ノ為日夜奮闘力盡力ヲ盡
 シ磨り候事誠ニ銀業界援助ノ賜切ト一同深ク感銘謹在候

此ノ上トモ一層ノ増産ニ盡シ銀高思ノ高分ノ一ニ報報ヒ申シ度
 ト切望致シ磨り候

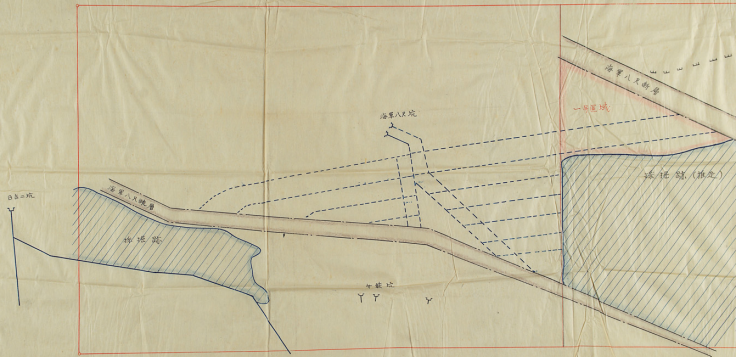


取由繼承知ノ如ク別紙相變額區内一室區域ハ階層關係上才田海
 軍領ヨリ片庭ニテ相變延長スレバ容易ニ探掘シ得ルモノニシテ
 且ツ第二區域ハ之又階層關係上小片領域ニテ探掘スレバ容易ニ
 作業出來得ルモノト存ジ時局下緊急増産ノ至其ニ即掘シ得ルモ
 ト確信致シ居候 若ク是等手現開敷面積トハ存ジ候得共何等特別
 ノ取附議ヲ以テ圖面出願ノ區域探掘方興許可置成下處此設察候
 細候也



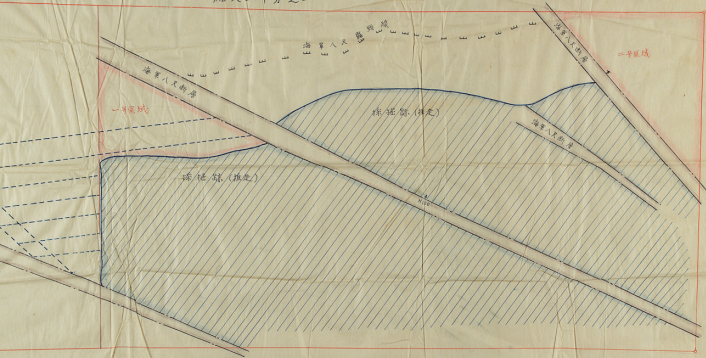
日鐵稻築鑛區內炭層木層群以上採掘願圖

縮尺三平



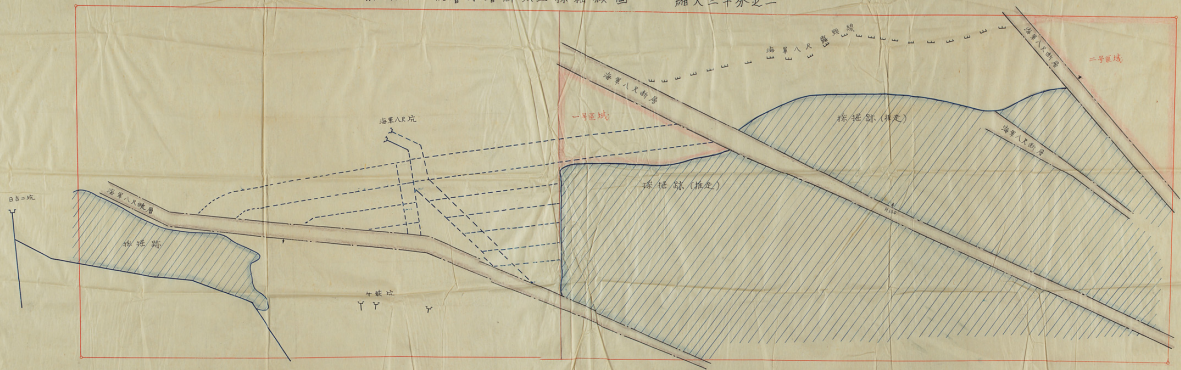
本層群以上探招願圖

縮尺三千分之一



日鏡稻築鎮區內炭層木層群以上探掘願圖

縮尺三千分之二



就由郵承領ノ如夕別紙標票領區内一號區城ハ諸君細條上才田海

福岡縣嘉穂郡大隈町牛隈

共同石灰
株式會社

日吉鑛業所

電話(大隈局)二一番



昭和十四年一月十日

日吉茶屋

孤長 明 初夜中 殿

松葉 孤



先取 瀧岡 飯山 並 聲 向 了 想 會 有 二 候 一 昭和十四年
度 申 某 許 因 書 湖 表 二 心 每 皆 以 收 索 著 取 二 於 十 九 日 皆 孤
正 由 探 據 二 越 予 願 二 並 智 局 二 以 會 去 頃 二 共 一 湖 表 一 上
至 急 向 報 酒 二 候 此 候 二 以 會 障 也





昭和
年

月
日

福岡縣嘉穂郡大隈町大字牛隈
共同石炭
株式會社

日
吉
炭
礦

電話大隈局一〇番



此品別紙を直に作製したる付申上り降出并五、品名、種類、数量、
納付、引、付、記、載、方、を、各、部、に、分、配、し、同、記、入、部、を、同、行、年、
に、あ、り、た、り、力、一、個、の、り、あ、り、し、

可

日吉炭田

日吉炭田

株式会社
日吉炭礦



重要鉱物増産促進行現則第三條 重要計畫書

(一)省ク

二 重要計畫書

(一)從來施設 大專(昭和十二年)現在

(二)炭鉱産日吉坑 鉱業権者日吉製鉄株式会社

(三)省ク

四 選煤法系統圖別圖通り

(五)省ク

六 選炭方法

取扱元鉱量不足。他(日吉の)

製炭種別 却込炭

数量 尾。〇。〇(一ヶ月の)

換算日数

日吉炭礦

系統圖 手選炭付記入セズ

各選炭機能力 手選炭手選炭機使用セズ馬記入セズ

一日操業時間 平均二時間

(七) 通氣方法系統圖別圖通り

二 試験及採炭自記計書概要

試験セシト名計畫書ナシ

採炭計畫書

價付在。在左四ヶ月間

方法 手選

設備 ナット炭付設備セ

殊塔區域別用系圖通り



三 出炭数量

切込	切込	炭石	炭石

外炭控

四 運搬・荷の計画・指導

故外運搬

人力より荷台籠、スリ、木車、扇入、レキ、舟、港、三、二、

故外運搬

故外、悪気、煤、揚、機、以外、搬、込、

五

株式会社 日吉炭礦

株主名簿



重要點の傳達方法、概して、規則草案ニ乗じて、定例工大匠（選
出及年切初等三年、五（日十三年四月至四年三月）各事業計畫書、書
之、規則草案ニ乗じて、調査牙印紙、依定例、概武部、照、上、七、三、七、
迄、適用出、手、便、以、爲、△、照、合、併、也、

概武

概武一（有）

概武二 事業計畫書

一、後、事業、概武、才、等（切初三年三月末、概武）

二、事業、概武、才、等（切初三年三月末、概武）

三、事業、概武、才、等

四、事業、概武、才、等

各、事業、概武、才、等、同、能、切、才、一、日、概武、才、等、切、入、コト

一、概武、才、等

二、概武、才、等

五ノ上ノ方ノ注ハ表ノ爲ニ自家清表也最上ノ歌書也最上ノ別ノ歌書也
也最上ノ表ニテテ記新ニルコト。

白道列	助書之別	分種是	一應	了々	花	陽名	今新
歌書所	一存記						
今新也	今新也	今新也	今新也				
今新也							
今新也							
今新也							
今新也							
今新也							
今新也							
今新也							

(記新水注注書)

一書勸國由共一通記ニテ可。但シ、シイアライロシヲ言英(又ハ白字豆)

ニテ撰記テ字空。然キ、ソノ高野トテ通表ノ、モ、シルコト

ニ経年ト點外撰若書可。國由形或ハ不曉トモ、ニテ不所新ニテモ花

記例ニ假ニ作撰何ノ、也。

ハ道撰方法ヲ示録國。聖皇ノ局ハ撰者ニテ通表國ノ形式撰也。



切りの種は得点/全道種族ノ取替ニ依テ表ヲ記入
 2レポート

A	種族	取
B	種族	取
C	種族	取

(例)
 A 種族
 B 一休官能力
 C 一日持重力
 取/取

① 道徳主義國ニ取替ニ依テ道徳主義種族ノ能力(一日持重力)ヲ取

S / 24 = markot

② 道徳主義國ノ得点ノ總平均ノ一ノ半ニ依テ全部ノ道徳主義種族ノ得点

を算出シテ表ヲ記入

種族	種族			種族		種族
	種族	種族	種族	種族	種族	
種族	種族	種族	種族	種族	種族	種族
種族	種族	種族	種族	種族	種族	種族

③ 道徳主義國ノ得点ノ總平均ノ一ノ半ニ依テ全部ノ道徳主義種族ノ得点
 功ノ取替ニ依テ表ヲ記入(國内三十三)

の英唐何所の方向に於て移住するに依りて鏡の對面
の移居を以て(玉座)を稱し(也)送是給予、進程被給、被與(民
外)運送給ん長船、又ハ別國ト云ルコト)

の拂歸、極力之國ハ之國入に移住するに依りて、是等ニテ送ルコト
上下層の宮傳之部、各ハ其外層ヲ上出トシ、工層ハ之部ニ

於休トシ、等リルコト(又ハ之部ニ移メルコト)

四、事奉する言旨、言旨の傳、所ナリ(圖)ハ之イニキ也)ト題シ、此等ヲ
記メ、之切トト(之等被テ通ト、是等傳トナエタメ)



二編第一一九五號

昭和十三年七月二十七日

日吉 炭 坑 御 中

二 編 第 一 九 五 號



重要礦物増産法施行規則第二條ノ規定ニ依リ商工大臣宛提出スベシ
昭和十三年度（自十三年四月一）分事業計畫書ヲ同規則第四條ニ基キ調査提
出方願岡山監督局ヨリ申越該條別紙様式參照三通調製ノ上七月廿一
日迄ニ御返報相煩度此致及既會候也



岡山縣立産業振興局
第一編 第一九五號
昭和十三年七月二十七日



稻葉農機店中

福岡縣嘉穂郡大隈町大字牛田
株式会社
日 吉 炭 礦

本行所製各件左列報告申上人

一 山原型風扇 別紙にて通す

一 新製各部断面積 百三平方寸

一 二規 ノ 二十八平方寸

一 扇風機名 エロワコ型

一 扇風機能力 各三立方寸吹 水櫃二枚 新製 (電力)

一 扇風機電力 各三馬力

一 埃屑作業用灯火教 キヤウノ 共有六十個

安全燈 四個 (在員檢査用)

No.

昭和十三年六月二十二日



昭和十一年十一月二十一日

植本玉成

日記の巻頭

是日申候より後葉葉に淫行し必
有之れ余在りて自ら之を断り
て之を急ぎ申出候事

山を控水田。穀は日之佳す新穀を獲

扇用は裁衣。其力。水控。之力。余毎裁衣力
陸田係余自新裁衣。別々。何由。其力。其力。

植本玉成
日記の巻頭

大正十一年



二領廣農庁



交付昭和3年6月9日

課長 經理課長 渡邊洋次 保員

1-1

請願書上申ノ急必要有之ハ候旨御手敷元記書
類至急御送付並下度此段及此會候也

白土光輝

用石及助

日本製鐵株式會社 二浦鐵管所
青木經理課長

階夏様様正城ノ茲柱圖 相三天水大入八人山
全 全 本年度様様正城圖(増設部別ニ亦段様様正城)
本年度ニ年間ノ出炭予定數量

本會ニ對シテ御料等ハ領書部任御記入候也

日本製鐵 二浦鐵管所

二浦鐵管所

昭和三年六月八日

三三一ノ一

印



冊	第 1 冊	第 1 冊	第 1 冊	第 1 冊
頁	1	1	1	1
冊	1	1	1	1
冊	1	1	1	1

日本製紙株式會社
 六月三日
 日本製紙株式會社
 六月三日
 日本製紙株式會社
 六月三日
 日本製紙株式會社
 六月三日

日本製紙株式會社
 六月三日
 日本製紙株式會社
 六月三日

六月三日
 六月三日
 六月三日
 六月三日

六月三日
 六月三日
 六月三日
 六月三日

六月三日
 六月三日
 六月三日
 六月三日

六月三日
 六月三日
 六月三日
 六月三日



陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍部

陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍部 陸軍部 陸軍部

陸軍部 陸軍部 陸軍部



昭和
年
月
日

福岡縣嘉穂郡大隈町大字牛隈
共同石炭
株式會社

日
吉
炭
礦

電話大隈局一―番

株式會社 日吉炭礦
全社白子山丁、鹿島村八藏町
（牛隈大字牛隈、嘉穂郡大隈町）
本會社新設牛隈國（牛隈大字牛隈）
株式會社



株式会社

199

福岡縣嘉穂郡大隈町大字小隈
此處在後
株式会社

日吉炭礦

昭和十一年

770
及

株式会社
福岡縣嘉穂郡大隈町大字小隈
此處在後
株式会社
日吉炭礦
昭和十一年
770
及

No.

昭和十一年六月十二日



承 許 書

昭和 年 月 日 附 福 岡 縣 探 權 領 許 證 第 壹 號 ヲ 以 出 ノ 追 加 讓
業 施 業 業 本 文 ニ 於 テ (前 層 ノ 州 界 上 (崎 西 探 登 第 壹 貳 七 八 號) 其 同 石
炭 採 取 會 社 日 吉 炭 坑 新 坑 、 武 埴 ヲ 以 左 片 陸 ヲ 當 坑 區 內 ニ 採 炭 シ 然 シ テ
日 吉 炭 坑 、 日 吉 新 坑 ノ 各 坑 外 境 地 界 線 ヲ 以 テ 確 定 ス ル モ ノ ト ス) ト 有 之
候 件 右 正 ニ 承 許 候 也

昭和 年 月 日

福 岡 縣 探 權 領 許 大 塚 町 大 字 平 塚 天 同 石 炭 日 吉 炭 坑

業 施 代 理 人 明 石 友 助

日 本 製 鐵 株 式 會 社 二 福 岡 業 所

業 施 代 理 人 吉 田 健 三 郎 殿

調査追加地系案

イ 釜鎌寄置

福岡縣探査地置置

ハ 調査所在地

福岡縣藤原郡大塚町船巻村地内

ハ 調査ノ名所

イ 調査ノ名所 石 炭

ハ 探掘ニ關スル事項

イ 主要ナル炭層ノ位置、名稱、走向、傾斜、厚サ

別圖示ノ通り 杉谷五尺 百三十二度 平均十六度 四尺五寸

間 三尺

下 四尺八尺

厚 六尺

六尺

ハ 探掘方法

第七七八

各層并斷層ノ關係上繪圖區探査

會社日吉炭坑新坑、炭坑、ヨリ左片盤ヲ當面區内ニ延設シ

然シテ日吉炭坑、日吉新坑ノ各坑外掘出機ニヨリ掘出スル

モノトス探掘ニ關シテハ主トシテ片盤前邊ヲ又ハ掘却掃ト

ナシ掘進ニ關シテハ掘却及火藥ヲ使用シテ坑天ノ手掘トス

ハ 壹ヶ年測定出炭高

杉谷五尺 四五〇〇噸 間 三尺 四五〇〇噸 計壹萬八千噸

下 四尺八尺 四五〇〇噸 厚 四尺八尺 四五〇〇噸

ニ 探掘上危險預防ニ關スル事項

イ 坑内ノ通氣ニ關スル方法又ハ收塵

坑

日吉新坑併炭坑及新坑並炭坑ト連絡シ以上二ヶ坑口



ヲ排氣坑トシ採所々々ニ煤切機出ヲ輸シ又ハ局部扇風機
ヲ設置シテ採集上危害ナキヲ期セシメ通氣良好ナラシム
ルモノトス

坑

日吉貳坑掛氣坑
採所北極坑掛氣坑
建機ニ試分付中
ヲ排氣坑トシ採所々々ニ煤切機出ヲ輸シ又ハ局部扇風機
ヲ設置シテ採集上ノ危害ナキヲ期セシメ通氣良好ナラシ
ムルモノトス

ロ地表又ハ坑内保全其價ノ危害豫防及公益保護ニ關シ特別ノ
施設又ハ制限ヲ要スルモノニ在リテハ其施設又ハ制限ニ關
スル事項

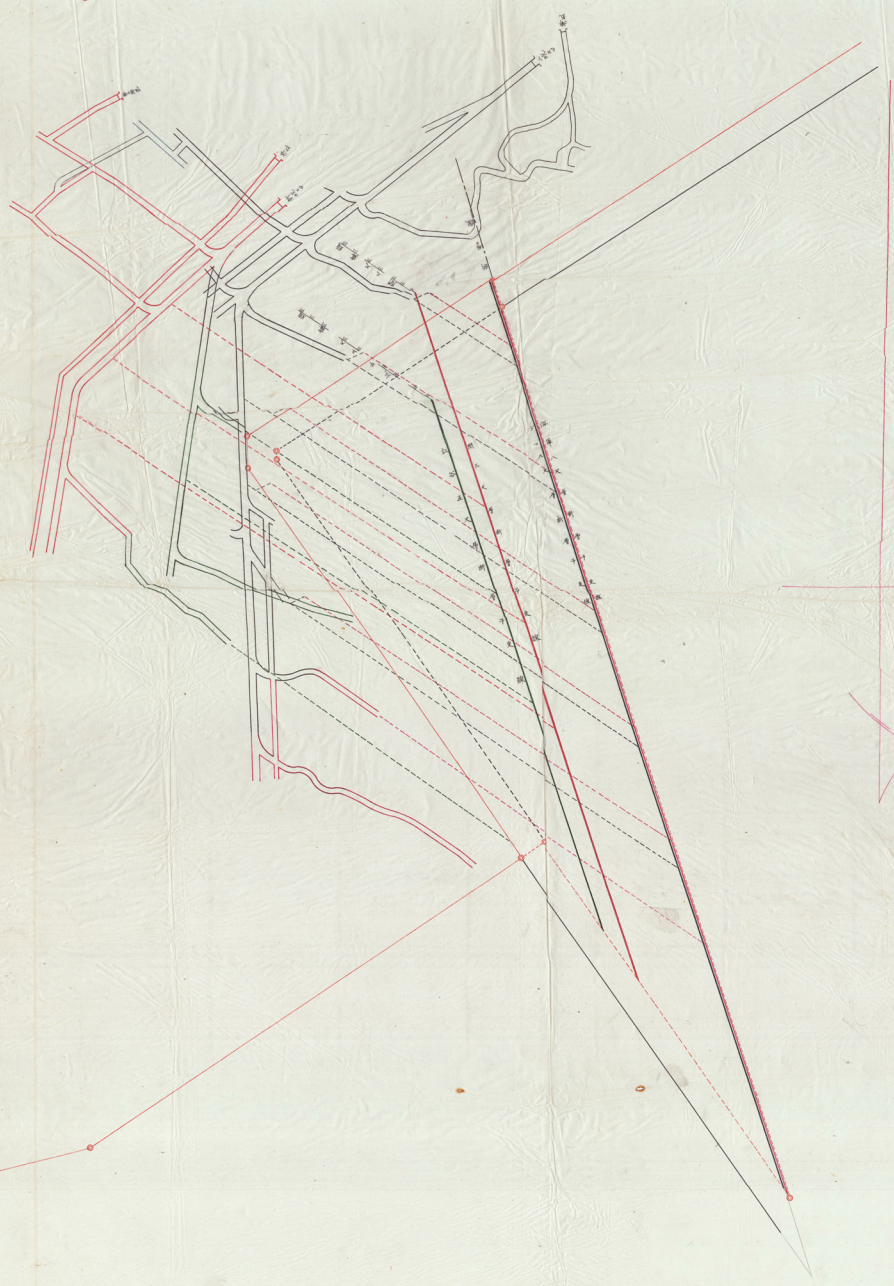
坑

坑ニ關シテハイゾレモ地表ハ高山滑リニ




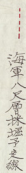
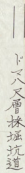
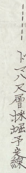
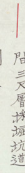
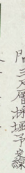
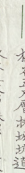
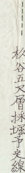
テ附屬其性ノ危害ハ最少ナクモ煤塵中坑道ニ貯シテハ過
當ノ松材ヲ用ヒテ枠組支柱付合等ヲ確シ採掘部ニハ煤
充填並ニ木橋、樓梯ヲ施シテ地表附屬ノ豫防ニ當ニ其性
危害豫防ニ就テハ適當ノ方法ヲ講ズルモノトス

右





凡例

 鑊 區 界
 坑 口
 海軍八層林坑道
 海軍八層林坑道
 卜八層林坑道
 卜八層林坑道
 間三層林坑道
 間三層林坑道
 板各五層林坑道
 板各五層林坑道

福岡縣嘉穂郡穂波村

日本製
株式會社

二瀬鑛業所

電話號碼一八〇番

日本製鐵株式會社
福岡縣嘉穂郡穂波村

福心子



日吉炭砧

明石砧長殿

十
二
七
皮

發行所		昭和二十一年八月	
種別		臨時	

事業計畫書
在中

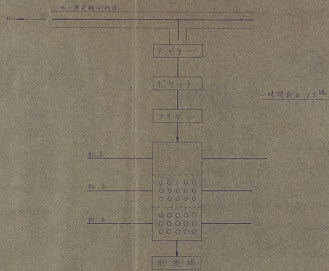


稻菜礦炭層柱狀圖 第三號



第八聯

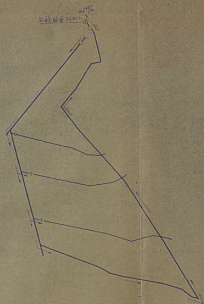
日吉炭礦選炭系統圖



第十號

日吉炭礦通氣圖

縮尺三千分之二



≡ D ○ ⊗ | | 凡
 門 開 扇 排 入
 風 扇
 扇 所 排 氣 口



昭和十六年陸軍省茶部書

日茶之製法(自)

一 從來之製法(大意)

(一) 昭和十五年陸軍省茶部

(二) 主要之製法

(1) 位置係日茶之新同老也

(2) 產同及價額

山口島

平均產額

平均價額

日茶一畝

一三〇度

一六度東

(三) 標法方法

日茶產額能下二前進式長型採茶法十冊也

採茶法之書附于該標法標法及標種十冊也



(六) 選定方法 洋中才七才同走也

日主北坑八選定坑二一坑中一坑三選。

選利二

種菜、種猪

坑口名	東坑尾路	北坑	南坑	北坑	南坑	北坑	南坑
日主北坑	一七	一五	四	八五	〇	一四三	一五

便用坑二此表

坑口名	東坑尾路	北坑	南坑	北坑	南坑	北坑	南坑
日主北坑	一七	一五	四	八五	〇	一四三	一五

(七) 通気方法 洋中才八才七才同走也

福袋、日主西坑北坑北坑二。主要南坑坑十該也二坑

中局新二南坑南坑坑二八才七才十才同走其他通気

設備二相違二接備二新二新二北坑二北坑

二北坑二北坑二北坑

主要南坑坑

坑口名	北坑	南坑	北坑	南坑	北坑	南坑
日主北坑	一七	一五	四	八五	〇	一四三

北坑南坑一此表

(三) 試雜及採集關二試査、概要

北坑南坑一此表

試雜二北坑南坑一此表

試査概要

日主北坑二北坑南坑一此表二北坑南坑一此表

北坑南坑一此表二北坑南坑一此表

北坑南坑一此表



昭和十七年四月 八八〇
五月 八〇〇
七月 三三五
八月 三三〇
九月 三三五〇

(三) 労務費 (日之量按十)

ノ體斜ニ以テ七割ノノ開墾(海軍亦十二半同共進)海軍
ノ正者ニ高者セテノ片墾巨者五ノ一七ノ米費各ニ
片墾既進トノ前進ヲ長厚耕ニ以テ耕作ノ米費各ニ
之上ノ片墾米費用セル十三斗是氣掃揚機十二〇
西日電氣掃揚機ニ取替ハテノ片墾既進八千坪約
運搬機ノ一八千五ノンヤ一ノ片墾止ル米費各ニ

昭和十七年
十月 三三五
十一月 三三五
十二月 三三五
一月 三三五
二月 三三五
三月 三三五

合計 運搬ノ間ニハ許才並ノ搬運
採炭場及所産坑道ノ材料ニ伴ヒテ設ケ所ノ採炭中
生カニ付テハ前述ノ採炭ノ間ニハ許才並ノ搬運中ニ宛セリ
付担

其地運前日要スルヤ

品名	ノ片ノ名	機械名	百石	折込又ハ買戻	理由
日米炭物	炭外	省電機力車甲			



第九聯 日老灰坑通氣管

元 街



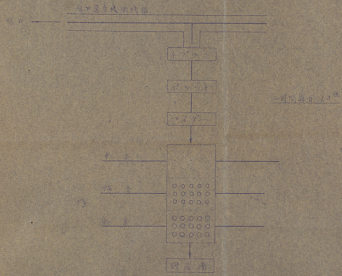
右是坡

入天龍洞
此天龍洞



第七節

日吉原境邊及京統箱



第十二號

日吉炭礦採掘計畫圖

縮尺三千分一

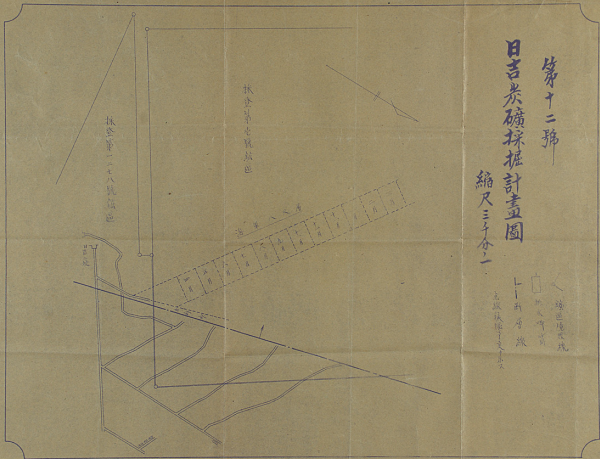


強硬地層

軟弱地層

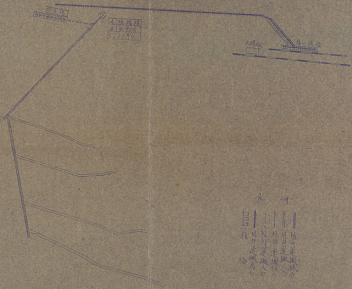
ト一層層線

主線採掘文字表示



日吉炭礦運搬系統圖

第一節



福岡縣嘉穂郡穂波村
日録産業
株式會社

一 瀬 鑛 業 所

電話 飯塚 一八〇番

稻築磁



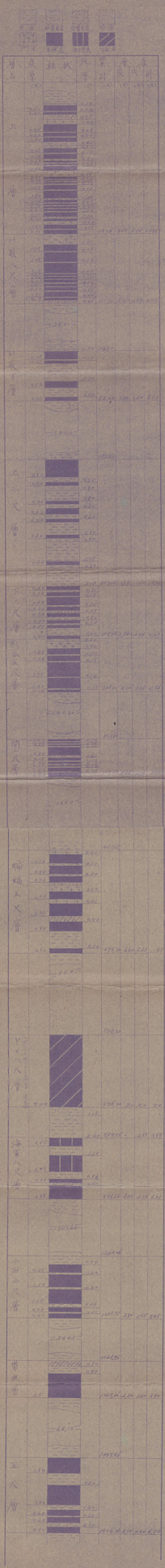
日本郵便規格計書
角形封筒(170×105)

日吉炭礦

昭和十五年度計畫書

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52

稻葉礦炭層柱狀圖 第三號



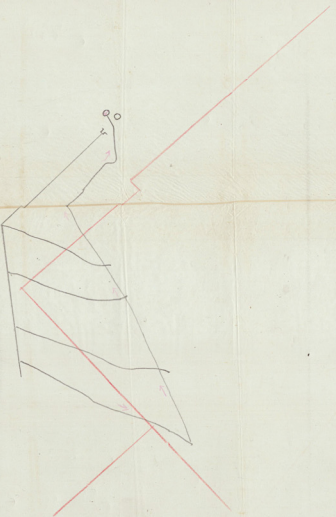
梅老谷地圖
梅城新定圖



月別路
子定路
主要路
次要路
新修路
坑界

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40

通至洗園



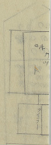
凡例

○ 提吊機

○ 吊氣機

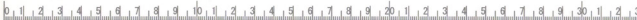
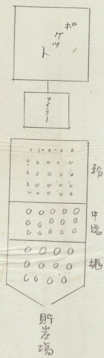
望
卷
系
統
圖

望
卷
系
統
圖



選炭系統圖

選炭系統圖



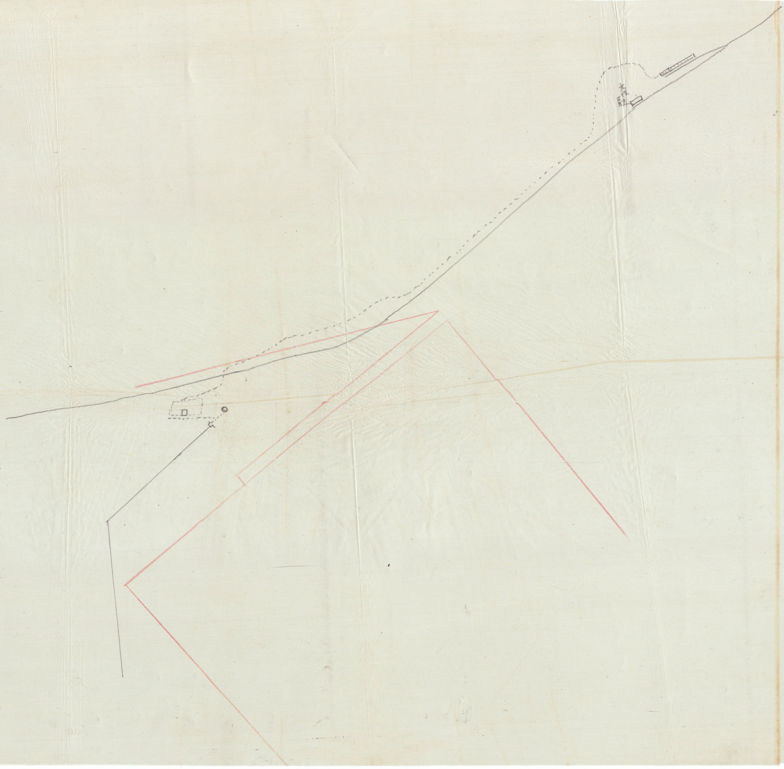
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

運搬至玩園

○ 提吊機
□ 運送機

● 九死口
... 蘇打帆索
— 鉸索

1/2



國立臺灣大學農學院

林業系 林產課 日 出 帳 簿

製本(日期): 11 年

十六年皮子定出老馬

月別	帳數	月別	帳數
4	2800	10	3350
5	3000	11	3350
6	3250	12	3350
7	3300	12 ₂	3300
8	3300	2	3300
9	3350	3	3350
	17000 ^{〇〇}		20000 ^{〇〇}

會計 冊 號 〇



交付昭和16年1月8日
 局長 佐藤 部長 佐藤 課長 佐藤

二冊 續第三號

昭和十六年一月八日

明日
 石吉
 友炭
 助成

殿

日鐵鑛業株式會社二冊鑛業所
 鑛業部長 佐藤 松之丞



昭和十六年度事業計畫書調製ノ件

啓
 新春之候、御慶昌奉大賀候。
 著重要鑛物増産法施行相則第二條ノ規定ニ依ル首額ノ件ニ關シテ
 未ダ編制備出報告局長ヨリノ來用無之候モ、大体昨年度ノ例ニ倣ヒ
 別紙ニ依リ調書作成ノ上、來ル一月二十日迄ニ當該宛明細示相煩
 設御依頼候也。

敬具

日鐵鑛業株式會社
 二冊鑛業所
 佐藤 松之丞

昭和十一年
四月
二一
一 浪 鐘 業 所
MITSUBISHI
INDUSTRIAL
MACHINERY
CO., LTD.

直前懸鐘扇ヨリ東照ノ懸調変様式變更ノ場合ハ直ニ様式作成ノ上
御送付致候條有御了知相成座申添候

尚書御分作成ニ當リテハ相締附ト充分打合セノ上重復、遺漏ナキ様
願上候

記

一、本文及統計表ハ各壹通宛
一、圖面ハ正副六通宛 作成ノコト

以 上

福銀一五年等二七四號

炭 礦

古炭臨^ニ於テハ至要礦物増産法施行規則第二條ノ規定ニ依リ昭和
十五年度事業計畫書書^ヲ同則第四條ノ規定ニ基キ作製ス
上正副工連二月十日迄ニ高工大臣宛當高經由提出セラ
ルベシ

但シ事業計畫書ハ別紙様式參照ノ上記載スルヘシ
但シ様式(一)(二)各三區様式(一)ハ一區ヲ提出セルコト

高市事業計畫書ハ昭和十四年四月一日ヨリ昭和十五年三月末日
迄ニ十五區以上^ヲ出炭スル豫定ノ炭礦ヨリ提出スヘキモノニ
シテ昭和十四年四月一日ヨリ昭和十四年十二月末日迄ノ出炭實
績^高ニ昭和十五年一月一日ヨリ同年三月末日迄ノ豫定出
炭高^ヲ計算シタルモノニ十五區以上^ニ達スルノ見込ニシテ

炭礦ハ本事業計畫書^ヲ提出スルノ要ナシ又當局又所管轄
區域ノ炭礦ニ在リテハ本事業計畫書書^ハ同文所註出提出
スルコト

昭和十五年一月十九日

福岡環山監督局長中村幸八



様式一

礦業事業計畫屆

礦區所在地

區番號

種名

山名

重要礦物増産法施行規則第二條ノ條山ノ地和哈五年定率
業計畫書別記及届出様也

年 月 日

領事

領業權者

何 某

(印)

商工大臣 殿

注意事項

事業計畫書ヲ領業代理人ヨリ提出スルノ場合ニ於テ領業權者
ノ委任狀ヲ添用スルコト

様式二

事業計畫書

一 礦床ノ位置ノ大要

(一) 坐標名 鉛 業 權 者 名

(二) 昭和拾年 度 出 産 高 三月廿一日 200 七月 300 計 500

昭和拾一年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和拾二年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和拾三年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和拾四年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和拾五年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和拾六年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和拾七年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和拾八年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和拾九年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和二十年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和二十一年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和二十二年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和二十三年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和二十四年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和二十五年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和二十六年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和二十七年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和二十八年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和二十九年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和三十年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和三十一年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和三十二年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和三十三年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和三十三年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和三十三年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和三十三年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

昭和三十三年 四月一日ヨリ 同月十二月末ヨリ 出 産 高 200 計 200

高(昭和拾五年)及拾四年米穀炭煤足高ノ合計シタルモノニ對シテ炭
 礦自家消費量ニ數ト販賣量ニ數トノ分テ販賣量ニ數トハ右表ニ
 ミテ記載スルコト

向拾一年度米穀所貯炭先之クアテハ記載スルコト
 夫中前年度ノ欄ニハ昭和拾四年四月一日ヨリ同年十二月末日迄ノ足高
 管轄ニ昭和拾一年ヨリ同年十二月末日迄ノ豫定ト炭高ヲ
 加算シタルモノヲ記入スルコト

用途別	販賣	先別		無埋炭	煙青炭	煙石	合計
		前年度	今年度				
製炭業	會社	前年度					
		今年度					
其他	會社	前年度					
		今年度					
其他	其他	前年度					
		今年度					



一 本名度事業計画ハ生産算計及労働力ノ供給状態ガ十三年十四年度ト大
 体同様程度ノ状態。有ルコトノ前提。計之ヲ樹立スルコト
 二 数字間ノ涉リ事業計画ヲ樹立セル基礎マデテハ数字間ノ計画ノ大
 体ヲモテ記載スルコト
 三 事業計画ノ記載スベキ内容中数字ノ涉リ部分ノ記テハ前年度ノ実績ト
 比較記載スルコト(前年度ノ数字ハ赤字ハ赤字スルコト)
 四 従来ノ施設ノ大要ヲ前記揚テ。依テ記載シ尙當該年度ノ事業ノ大要ヲ
 五 本計画書第一欄ノ三番目項五項六項七項ノ様式ニ記載スルコト
 六 簡易ノ使用機械ハ全ノ様式ニ記テ。關シモノヲ除クノ揚付箇所ヲ括弧内
 又ハ括弧外ニ記入スルコト
 七 新増設又ハ取替ノ分ハ之ヲ明示シ其ノ年度年月日ヲ備考欄ニ記入
 スルコト

式

採炭用機械	臺	數	備	考
カプラー				
ドリル				
ディーゼル				
エールピフク				
空氣壓縮機				

注意事項 空氣壓縮機ハ備考欄ニ共ニ大サ馬力ヲモテ記入スルコト

式

運搬機械名	揚付箇所名	種類	大サ(馬力)	備考

注意事項 採内外ノ分ヲ記入スルコト



樣式

運炭機名種類
臺數
一時間能力

備

考

樣式

主要原機種類

公称送炭量

原動機馬力

備

考

樣式

排水機種類

揚付箇所

公称排水量

原動機馬力

臺數

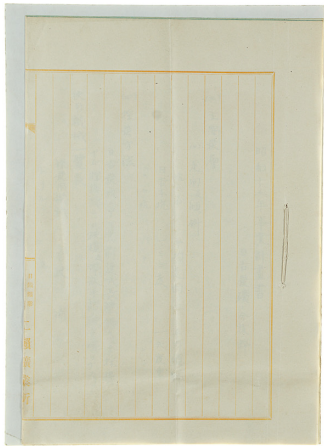
備考

様式三

記

昭和拾四年度、事業計畫、豫定出度金高ニ對シ別冊附録高(昭和十
四年四月一日ヨリ同年十二月末日迄)ノ實績高(昭和十四年一月ヨリ
五月末日迄)豫定出度金高ヲ見込ニ計算シラルモノニ於テ出度金
増減ノ理由ヲル理由
昭和拾四年度ノ實績高ニ對シ昭和拾五年度ノ事業計畫、豫定出
度金高が増減セラル理由
昭和拾五年度ノ別冊豫定出度金高ニ對シ昭和拾四年十二月末日迄ノ
出度金實績高トノ對照表
昭和拾五年度ニ於ケル前以、入手及労働力ノ供給状態ヲ記シ而
今後ニ對スル意見點ニ其他増去ニ支障トナルベキ事項ヲ列挙
シ說明スルコト

例ハバ(一)資料不足ノ事業ニ及ボス影響
(二)勞力不足ノ事業ニ及ボス影響等
其ノ他事業計畫樹立實施ニ關シ意見アラハ其ノ詳細
記載ノコト



二
價
行



昭和十五年事業計畫書
日吉炭礦 今技辭

(三) 主要炭層

(一) 走向及傾斜

坑口名

平均走向

平均傾斜

日吉本坑

一三三度

一六度東

二坑

(四) 探査方法

日吉炭坑ニテハ前道次長壁礫ヲ以テ探査

ナル探査跡ニテ礫積層帶狀ヲ誌 硬充填ヲテス

波用機械一覽表

探査用機械

台数

備考

トナリ

五

施業方法

日吉炭坑

断層、圓縁、首鑽、區、吏、南、隔、一、部、隣、窟、區
 採登方一、二、八、號、共同、石、炭、株式、會、社、日、吉、炭、坑
 二、坑、及、新、坑、於、テ、花、片、炭、若、採、進、シ、テ、海、軍、八、大、層
 抄、炭、大、層、長、壁、式、前、進、採、或、後、退、採、
 採、掘、ナ、シ、テ、之、同、區、域、採、掘、ハ、テ、八、大、層、一、部、
 間、三、大、層、全、部、残、外、ハ、治、ニ、テ、採、掘、ヲ、終、了、セ、リ、
 条、何、方、ニ、テ、同、考、照、

(二) 運搬方法

日吉炭坑ニ坑、於、テ、ハ、木、卸、ニ、蒸、氣、捲、リ、用、テ、片、炭、坑
 道、運、搬、ハ、手、押、切、羽、運、搬、機、ハ、主、ニ、
 坑、外、運、搬、坑、口、附近、ニ、テ、運、搬、機、後、力、軌、道、
 倉、庫、上、日、煤、大、隈、取、附近、積、込、場、送、

九九

使用機械一覽表

坑口石	運搬機名	採竹、流	種類	×	備考
日吉炭礦	採揚機	木卸	蒸氣十寸	坑外	
		手、上、 上、上、 上、上、	各切羽	電氣 一專、他二台	
(外)	運搬方法	添付方、八、号、圖、參、照			
坑口石	取扱元、運、搬、機	積込機、 用、用、 用、用、	粗炭	合計	能力、 採、業、時、間
日吉炭坑	一、六、	一、五、 一、五、 一、五、	〇、	一、四、	一、三、
使用機械一覽表					
坑口石	運搬機名	種類	台数	一時間能力	備考
日吉炭坑	運搬機	ジシマ	一	一三	

(外) 運搬方法 添付方、十、号、圖、參、照
 稲葉、日吉、兩、坑、共、排、氣、坑、ニ、主、要、扇、風、機、ヲ、設、置
 シ、坑、内、局、部、ニ、ハ、扇、風、機、ス、
 (セ、ツ、ト、及、風、管、)



用其他通氣設備，相候子稼働（或）新
 鮮空氣供給不良，空氣排除ス

主要扇風機名

坑口名

主要扇風機種類

公稱送氣量

原動機馬力

備

考

日吉炭坑

シロフコ

三万

四合

三馬力

津水町前二覽表

坑口名

津水町前種類

掘付ノ新

公称送氣量

原動機馬力

長備ノ考

日吉炭坑

ノーボン

二坑ヲホ下

七五五方合

一三五馬力

三坑即誌

三

四

一

(四) 試掘及採炭ノ関スル計畫ノ概要

(1) 地質及鑛床(省畧)

(2) 試掘(省畧)ノ計畫ノ概要

計畫ナシ

(三) 採炭ノ関スル計畫ノ概要 進行表(省畧)考

日吉炭坑ニハ採炭第一号鑛區内一部採掘ヲ為シ日吉

二坑(日吉)約六米、地質ノ左折ニテ一五度傾斜、以テ

左斜即ノ開鑿(深サ十米、四ノ際)適量ハ大層ノ着炭

セシ、片磐距離ト一六・五米、片磐坑道トナリ前道

式長壁採掘ヲ採掘(予定ナリ)之ヲ為シ現使用ノ

十二吋蒸氣捲揚機(二百馬力)電氣捲揚機(取込日

中倉坑道)手押切羽運搬機トシテハキニシマベシ

使用スル予定ナリ

(三) 出炭量

山跡表

月別

予定出炭高

昭和十五年四月
五月

坑口名	月別	
日吉	四月	一五〇〇
	五月	一五〇〇

日吉炭坑 二覽表 採炭部



昭和十五年六月

七月	一五〇〇
八月	〇五〇〇
九月	二五〇〇
十月	三〇〇〇
十一月	六〇〇〇
十二月	二〇〇〇
昭和十五年一月	六〇〇〇
二月	六〇〇〇
三月	六〇〇〇
計	三〇〇〇〇

運搬費之計畫、概要

樺太場及附属施設、移動に伴ヒテ設ケル
移動ト生ズベキトシ、前述ノ樺太場ニ限リテ計畫ス

概要中ノ記セテ如シ

其他要點、要スベキモノ			
坑口名	機械社	馬力	新設ノ要史
坑外	格機	二馬力	要史
			採算方々、恐臣再採算ス

昭和十四年度、於テノ採算、概テ八千五拾圓ノ留給状態ニ至
今後、對テ之見、甚屬、存上支障、トモベキ也、要

日吉礦

本年度、採算計畫、立テ其準備、最初従業員
住宅ヲ建築申、十二打程不足、其、其、元成
ニ渡延、但、元成打程、速ニ配給、不御給、不
尚、今後、増産、強南、諸種、資材、特、早、配給
下、下、採、切望ス。



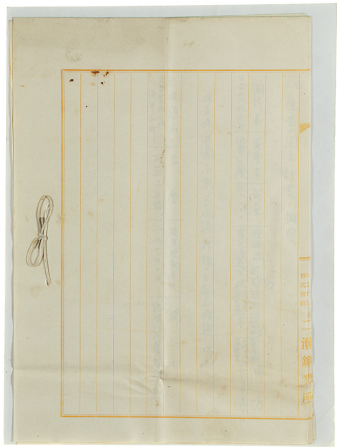
(一) 採炭(圖)之計畫, 概要

個(計)名 炭層名 炭量 採炭法 採炭所 備考
 日吉炭坑 海軍大層 三〇〇〇 露天 採炭所 備考
海軍大層 備考

採炭場(準備)之坑道, 外替之主要之炭層(炭)也

坑道名 炭層名 炭量 採炭法 採炭所 備考
 日吉炭坑 海軍大層 一五〇〇〇 露天 採炭所 備考
海軍大層 備考





重要鉱物地産地産法施行規則等施行細則(重要地産品計書)書

格式 一 (省)

様式 二 事業計画書(省)

一 従来施設ノ大要

(一) 出炭地及 日当坑

鑛業權者日飲能業株式會社

(二) 開入面積及炭層高 式處。。。

(三) 主要炭層位置名稱並向傾斜率并炭層層數圖

(四) 採炭方法 三ノ間并盤採機又 追却機トシ切取炭層撤出トシセシ

ワイヤ使用ス

(五) 運搬方法 三ノ間並掘機トシ時 一時間能カ八噸

一日採炭時間十時間

三ノ間圖 別紙ノ通リ

(六) 選炭方法

取扱先鑑査 積差機トシ 數層 三ノ間圖 選炭機能カ

一日二回三輪 地中送取 現在及 別圖等 一時間三噸

一日採炭時間十一時間

(七) 通氣方法

主要ノ的風呂

二坑	公称	現在	三ノ間並掘機	三ノ間並掘機
風量	三ノ間並掘機 三ノ間並掘機 八ノ間並掘機	現在	三ノ間並掘機 三ノ間並掘機	三ノ間並掘機 三ノ間並掘機
水圧	二時半	四半	三ノ間並掘機 三ノ間並掘機	三ノ間並掘機 三ノ間並掘機
迴轉數	六。	五。	三ノ間並掘機 三ノ間並掘機	三ノ間並掘機 三ノ間並掘機



三 燒圓 別圖 通り

二 試験及稜炭の圓の計量概要

試験 ヲシ

稜炭三箇の計量概要

二 塊左鈎部の延長を海軍八分厚の紙に曲り、トリ曲片

と四片同約半圓形を作り、片假押研及是封研ヲス

詳細添付圖、通

三 出炭數量

(1) 号表別紙

(2) 号表別紙

運搬の圓の計量概要

初期よりア、ア、ア、炭庫詰めヨリ手押ヲ履テ出シ十二吋蒸氣機

捲機ニ依リ、此外、搬出シ選炭機ヨリ選別シ炭庫詰めヨリ

馬力依リ、取止軌条ヲ利用シ發賣貨ヲ積込リテス

選炭機 車動機十馬力、一時同車力十三部一日操業時間終尾時間

考慮方法

全部出炭日發賣額所違フ



三ノイ号表

月別	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	十五日	月別	十五日
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一月	一
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二月	二
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三月	三
四	四	四	四	四	四	四	四	四	四	四月	四
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五月	五
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六	六月	六
七	七	七	七	七	七	七	七	七	七	七月	七
八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八月	八
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九月	九
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十月	十
十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一	十一月	十一
十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二	十二月	十二
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

三ノ口号表

炭種別出炭表		地炭		加圧炭		粗炭		矽炭		計	
前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度	前年度	今年度
二〇〇〇〇	二六二五〇	二〇〇〇〇	二六二五〇	二〇〇〇〇	二六二五〇	二〇〇〇〇	二六二五〇	二〇〇〇〇	二六二五〇	二〇〇〇〇	二六二五〇
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

